

Walk about **Mizuumaki**

やわらかなひざしに誘われて

みんなで

まちをあるいてよ

みんなであちをあるこうよ



水巻町の花・木といえばコスモスとイチヨウ。秋、水巻町は一年で一番きれいな季節を迎えます。コスモスの見ごろは10月下旬。イチヨウの紅葉は11月下旬。
さあ、気候のいい季節に、みんなであちを歩いてみましょう。

秋になると一面のコスモスに彩られる遠賀川河口敷

町の西側を南北に流れる遠賀川。その遠賀川に沿って作られている全長6.5キロメートルの河川敷公園では、毎年秋になると、100万本のコスモスがピンクや白の花を咲かせます。その姿はまさに圧巻。各地からカメラを持った家族連れやカップルが訪れます。

この河川敷コスモス園は大きく分けて2つのエリアに分かれています。では一番下流から歩いてみましょう。

まず一番下流にあるのは猪熊コスモス園(写真①②)。ここは河川敷だけではなく、土手を挟んで隣接する公園「みどりんばあーく」周辺も一面のコスモスに彩れます(写真③)。そして、このみどりんばあーくでは毎年10月下旬、満開のコスモスの中でコスモスマツリが行われます。

この猪熊コスモス園から上流に向かって進み、国道3号線、JR鹿児島本線の鉄

コース所要時間 ①から⑥までの区間

- ウォーキングにピッタリ!
歩いて **60分**
- いつでも気軽にサイクリング
自転車で **15分**



いろいろな体験してみよう 遠賀川河口館



遠賀川河口堰にある河口館。ここでは、遠賀川に住んでいる魚たちを展示しています。なかなか見ることのできない魚もいるので一見の価値あり!いろいろなパネル展示もあり遠賀川のことを楽しく学習できます。入館無料です。

遠賀川河川事務所 遠賀川河口館
住 水巻町猪熊 10-7-1 ☎ 093-201-1675
🕒 9:00 ~ 16:30 (平日) 🗓 土・日・祝日・年末年始
🅐 あり

橋をくぐると、そこには伊左座・立屋敷コスモス園のそばには、八劔神社があります。この八劔神社の境内で、じつと悠久のときの流れを見守っている大イチヨウ。この大イチヨウは雄株の古木で、樹高22・26メートル、幹周りは9・7メートル、樹齢は1900年を超えているといわれています。

県指定天然記念物 八劔神社の大イチヨウ

この伊左座・立屋敷コスモス園のそばには、八劔神社があります。この八劔神社の境内で、じつと悠久のときの流れを見守っている大イチヨウ。この大イチヨウは雄株の古木で、樹高22・26メートル、幹周りは9・7メートル、樹齢は1900年を超えているといわれています。戦争や数々の災害などを乗り越え、昭和53年3月25日に福岡県の天然記念物に指定されました。それから約30年たった今でも、しっかりと大地に根を張って、水巻町のシンボルとしてまちを見守っています(写真表紙と⑤⑥)。

この八劔神社の大イチヨウは、日本武尊が熊襲征伐のときに立屋敷に立ち寄り、都からこの地に逃れてきた砧姫という娘と結ばれて、その証として植えられたものと神社の由来に記されています。また、イチヨウの枝には、気根と呼ばれるこぶがあり、母の乳房に似ていることから、皮を煎じた汁を飲むと母乳の出がよくなると伝えられています。そのため、昭和30年代までは母娘連れの参拝者も多く、お礼参りの煎じかすを収めた袋

1 猪熊コスモス園

遠賀川の風に吹かれて、色鮮やかなコスモスが揺れています。

2 猪熊コスモス園

ここからスタート!

休日にはカメラを持ったカップルや家族連れでにぎわいます。

3 みどりんばあーく周辺

やっぱりコスモスもわたしもキレイ!

みどりんばあーくの周りにも一面のコスモス畑が広がります。

4 立屋敷コスモス園

国道3号線をくぐると大きなイチヨウの木が見えてきます。

5 八劔神社と大イチヨウ

日本武尊と砧姫の伝説が残る八劔神社と大イチヨウ。

6 遠賀川河口館

黄金色に輝く大イチヨウ

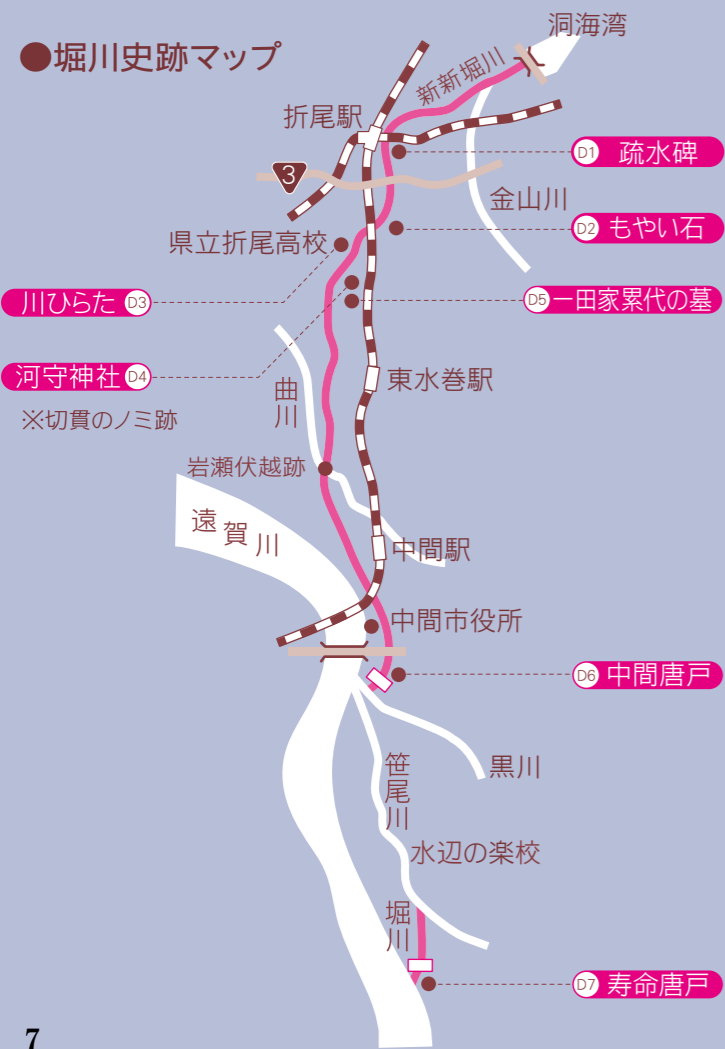
ポクが いちはん

紅葉の進む11月下旬には、あたり一面が黄金色に輝きます。



堀川 (水巻町吉田)
中間市、水巻町、北九州市をまたいで流れ、洞海湾に注いでいる人工の運河「堀川」。

●堀川史跡マップ



D1 疏水碑 (八幡西区折尾)
碑文は黒田長成が書いたもので堀川工事の業績をたたえています。

歴史の息吹を
今に伝える
堀川の史跡たち



D3 川ひらた (折尾高校内)
五平大とも呼ばれ年貢米や石炭の輸送に用いられました。



D2 もやい石 (八幡西区折尾)
川ひらたが休むときに、船頭が綱を結びつけた石。



D5 一田家累代の墓 (水巻町吉田)
久作の時代から明治まで続く堀川請持庄屋、一田家の墓。



D4 河守神社 (水巻町吉田)
6代藩主継高を祭った神社で、堀川を見守っています。



D7 寿命唐戸 (八幡西区楠橋)
1804年完成した水門。構造は中間唐戸と同じです。



D6 中間唐戸 (中間市)
今の岡山県吉井川の水門を参考に1762年に造られました。



水巻の歴史に纏られた
堀川の物語

が近くに吊り下げられていた。夏には緑に、秋には黄色に輝く大イチョウは一見の価値あります。

遠賀川から東に1キロメートルほど離れた北九州市境には堀川という川があります。この堀川は自然にできた川ではなく、江戸時代に人の手によって掘られた運河です。全長12キロメートルの堀川は中間市・水巻町・北九州市の3市町をまたいで流れ、若松区の洞海湾に注いでいます。

1621年に、治水目的で黒田長政が着手してから、途中の中断を含めて、184年の長い歳月と苦労を重ね、幾多の困難を克服して作り上げられました。

吉田と折尾の間は地形が悪く、水がわき出て難工事となりました。そんな折、藩主長政の急死と藩内外の事情で1623年、工事は中止となりました。工事が再開されたのは、1751年、6代藩主、黒田継高のときでした。実に第一期工事が中止となつてから128年後のことです。コースも大膽堀

から吉田車返しを通るルートに変更されました。

しかし、車返し付近は岩盤が多く工事は困難を極めました。土木技術の発達していないこの時代、ノミとツチを使って岩を砕いていきました。ノミやツチは、すぐに使えなくなるため、現場近くに鍛冶屋も設けられました。約450メートルの岩盤を砕くのに9年の歳月が費やされています。この時の工事の苦勞をしのげるノミの跡は、今でも吉田の河守神社近くの岩壁に見ることができます。

そして1762年に洞海湾まで開通、1804年には上流に寿命唐戸が完成し、ついに堀川運河は完成しました。その後、堀川は、石炭を若松港まで運ぶ船にとって、重要な輸送路となったのです。

ところが1891(明治24)年、若松直方間に鉄道が開通。鉄道の方が輸送時間が短いことや運賃が安いことなどから石炭輸送の主役は次第に鉄道へと変わっていきました。そして1938(昭和13)年を最後に、200年におよぶ堀川の水運の歴史が幕を降ろすことになったのです。現在でも川沿いには、多くの史跡が残っており、堀川そのものが貴重な歴史的文化遺産といえます。

切貫(きりぬぎ)のノミ跡 (水巻町吉田)
吉田の車返しにある工事で最も困難だった場所。今もノミの跡が残っています。